

一般社団法人日本疫学会 第3回社員総会 議事録

日 時	2019(平成 31)年 1月 31日 (木) 17:00-18:00
場 所	一橋大学 一橋講堂 (東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター内)
出席者	165名(内 委任状提出者:63名)、欠席者数:12名

1. 祖父江議長より、代議員 177 名のうち、出席代議員 102 名、委任状提出代議員 63 名で、過半数に達しており本社員総会が成立したことが報告された。また、議事録署名人として、郡山千早先生と安田誠史先生が承認された。

2. 2018 年度事業について、喜多村事務局長から下記の報告があった。
 - 1) 学術総会の開催に関する事業 (定款第 2 条 1 項)
 - ・ 第 28 回日本疫学会学術総会、第 25 回 JEA 疫学セミナー
2018 年 2 月 1～3 日 福島 (安村誠司 学会長)
学術総会 667 名参加、JEA 疫学セミナー160 名参加
 - 2) 学会誌発行に関する事業 (定款第 2 条 2 項)
 - ・ 会誌 Journal of Epidemiology Vol.27 (12) , Vol.28(1)～ (11) の刊行
 - ・ J-STAGE での出版を再開、アクセプト版の早期公開を開始
 - 3) 情報の収集及び提供に関する事業 (定款第 2 条 3 項)
 - ・ ニュースレター 第 51 号、第 52 号の刊行
 - ・ ホームページ (日・英) およびメルマガ (疫学会通信等) による情報提供
 - ・ メディア連携、疫学リテラシーの普及促進についての検討
 - ・ 疫学リソース利用促進についての諸課題の検討
 - 4) 人材の教育、研修に関する事業 (定款第 2 条 4 項)
 - ・ 第 8 回疫学サマーセミナー (8/26 70 名参加、内 18 名新規入会)
 - 5) 支援、交流に関する事業 (定款第 2 条 5 項)
 - ・ 疫学の未来を語る若手の会 (若手の会の尾瀬功世話人代表幹事より報告があった。)
第 23 回疫学の未来を語る若手の集い (2/1、78 名参加)
第 4 回疫学若手の会合宿@伊豆 (10/6-7、60 名参加)
 - ・ 第 29 回学術総会トラベルグラント選考 (2 名)
 - ・ 共催・シンポジウム、教育講演
日本抗加齢医学会 (5/27)
日本栄養改善学会・日本病態栄養学会 (9/5)

日本高血圧学会 (9/14)

日本臨床栄養学会・日本臨床栄養協会 (10/7)

- ・国際疫学会 (IEA) との連携、IEA Western Pacific Website の開設
 - ・関連団体との連携 (日本医学会、日本医学会連合、禁煙推進学術ネットワーク、日本人類遺伝学会、全国公衆衛生関連学協会連絡協議会、社会医学系専門医協会等)
- 6) 資格の認定に関する事業 (定款第 2 条 6 項)
- ・疫学専門家制度について試験作成、資格審査などを検討
 - ・日本疫学会監修の「はじめて学ぶやさしい疫学」改訂第 3 版を発行
 - ・社会医学系専門医制度の講習のため e-learning 教材を作成、会員専用サイトで公開
- 7) 表彰に関する事業 (定款 2 条 7 項)
- 日本疫学会功労賞受賞者 (五十音順、敬称略)
- 磯 博康 (大阪大学)
- 中村 好一 (自治医科大学)
- 安村 誠司 (福島県立医科大学)
- 日本疫学会奨励賞受賞者 (五十音順、敬称略)
- 大塚 礼 (国立長寿医療研究センター)
- 清原 康介 (大妻女子大学)
- 優秀査読者賞受賞者 (五十音順、敬称略)
- 篠崎 智大 (東京大学)
- 鈴木 越治 (岡山大学)
- 平田 匠 (東北大学東北メディカル・メガバンク機構)
- Paper of the Year (敬称略)
- 清原 康介 (大妻女子大学)
- 8) その他の関連する事業 (定款第 2 条 8 項)
- ・多様性 (ダイバーシティ) 促進についての検討
- 9) その他
- ・役員などの COI 自己申告書の収集・管理
 - ・各種規程整備
 - ・将来構想検討委員会報告書作成
 - ・名誉会員の推薦
 - ・会議等に関する事項
- 第 2 回社員総会@コラッセ福島 (2/2)
- 第 1 回理事会@コラッセ福島 (2/1)
- 第 2 回理事会@大阪大学東京ランチ (5/13)
- 第 3 回理事会@ビッグパレットふくしま (10/26)

3. 2018年度決算書案について、喜多村事務局長より、貸借対照表および正味財産増減計算書に基づき、下記の報告があった。

2018年度の資産合計は、45,250,121円、負債合計は、3,167,232円である。また、指定正味財産と一般正味財産を合わせた正味財産合計は42,082,889円で、負債及び正味財産合計は、45,250,121円であった。

一般正味財産増減の部における経常増減の部について、2018年度の経常収益は、受取会費18,196,170円、事業収益21,472,847円、受取補助金等4,471,944円等があり、経常収益計44,148,942円である。

経常費用は、事業費24,108,995円、委員会活動1,926,686円、学会事務局6,759,638円等があり、経常費用計35,008,761円で、当期経常増減額は9,140,181円であった。経常外増減の部については、一般正味財産期末残高が40,763,479円である。

指定正味財産増減の部において、日本学術振興会からの受取補助金等3,500,011円と一般正味財産への振替額マイナス4,471,944円により、指定正味財産期末残高は1,319,410円となり、正味財産期末残高は、42,082,889円で、先ほどの貸借対照表の正味財産合計と一致する。なお、第28回学術総会の準備金残金約81万は、国際化基金に組み入れた。

2018年度事業報告及びその附属明細書、理事の職務の執行、計算書類及びその附属明細書について、西信雄監事より監査報告があり、2018年度決算書は承認された。

4. 2019年度事業計画について、喜多村事務局長より下記の報告があった。

- 1) 第29回日本疫学会学術総会、第26回JEA疫学セミナーの開催
- 2) 会誌Journal of Epidemiology Vol.28(12), Vol.29(1)-(11)の刊行
- 3) ニュースレター第53、54号の刊行、ホームページ(日・英)、疫学会通信、メルマガによる情報提供、メディア連携・疫学リテラシー普及促進についての検討、疫学リソース利用促進についての諸課題の検討
- 4) 第9回疫学サマーセミナー等の開催
- 5) 疫学の未来を語る若手の会集い等の開催、国際疫学会(IEA)との連携強化、Japan-Korea Joint Epidemiology Seminar(2/1)、トラベルグラントの募集・選考、関連団体との連携
- 6) 疫学専門家認定制度の開始(資格審査規定作成、疫学専門家試験作成、上級疫学専門家申請受付・結果報告、疫学専門家申請受付)、社会医学系専門医協会の研修
- 7) 功労賞、奨励賞、優秀査読者賞、優秀論文賞の選考
- 8) 多様性(ダイバーシティー)促進についての検討

- 9) 役員などのCOI自己申告書の収集・管理
- 10) 代議員・理事・理事長選挙の実施
- 11) 各種規程の整備
- 12) 名誉会員の推薦
- 13) 社員総会・理事会の開催

以上の事業計画については、理事会で承認された。

5. 2019年度予算書について、喜多村事務局長より下記の報告があった。

事業活動収入については、会費支払い義務のある普通会员1,800人、代議員180人として、会費収入1,836万円が見込まれ、事業収入として上級疫学専門家の申請・登録料として400万円を見込んでいる。日本学術振興会からの補助金収入等を合わせて、事業活動収入計を46,017,000円として計上した。

事業活動支出については、事業費支出として、会誌発行費366万円、JE編集委員会費1,120万円、総会準備費150万円、疫学の未来を語る若手の会10万円、学術総会1,050万円、疫学専門家認定の費用として300万円を計上している。

賛助会費では、日本医学会年会費13万円、禁煙推進学術ネットワーク連絡協議会に10万円、全国公衆衛生関連学協会連絡協議会に2万円を計上した。

委員会活動では、海外からの学術総会参加者に対するトラベルグラント等の国際化推進費として66万円、疫学サマーセミナー補助費27万円、ニュースレター作成費21万円、奨励賞・功労賞10万円、委員会開催費等30万円を計上した。

理事会では、会議費7万円、交通費55万円を計上している。

学会事務局では、法定福利費152万円、人件費676万円、業務委託費62万円、会計監査費39万円を計上した。

その他、管理費230万円、選挙費29万円、都民税7万円を計上し、事業活動支出計44,398,000円が見込まれ、事業活動収支差額は1,619,000円となる。

以上の予算書については、理事会で承認された。

6. 新名誉会員について、祖父江議長より、理事会で推薦された新名誉会員候補が紹介され、下記のとおり承認された。

新名誉会員（敬称略）

藤田 委由

7. 役員人事について、祖父江議長より、下記のとおり報告があった。（敬称略）

- 1) 第31回日本疫学会学術総会会長について、佐賀大学の田中恵太郎先生が推薦され、理事会で承認されたことが、祖父江議長より報告された。

その他の役員については、下記のとおりである。

- 2) 副理事長
玉腰暁子、三浦克之（任期は2020年に開催の社員総会まで）
- 3) 委員会委員長、WG長（任期は2020年に開催の社員総会まで）
 - ・疫学リソース利用促進委員会
委員長：岡村智教、倫理問題検討WG長：栗山進一、リンケージ基盤推進WG長：若井健志、既存疫学研究データ資源化・共有・活用WG長：近藤克則
 - ・学会等連携推進委員会
委員長：曾根博仁、禁煙推進学術ネットワーク連絡WG長：片野田耕太
 - ・多様性（ダイバーシティー）促進委員会
委員長：田中純子
 - ・広報委員会
委員長：中山健夫、疫学リテラシー普及促進WG長：安田誠史、メディア連携WG長：金子聰
 - ・JE編集委員会
委員長：松尾恵太郎（任期は別に定める）
 - ・国際化推進委員会
委員長：井上真奈美
 - ・疫学専門家・人材育成委員会
委員長：尾島俊之、試験作成WG長：井上茂、資格審査WG長：小橋元、疫学教育推進WG長：本庄かおり
 - ・COI委員会／選挙規定検討委員会
委員長：郡山千早
 - ・総務委員会
委員長：喜多村祐里
 - ・選挙管理委員会
委員長：北村明彦（任期は2021年に開催の社員総会まで）
8. 「代議員および役員の選任に関する細則」の変更について、祖父江議長より、代議員の被選挙権についての追加要件として、「継続4年以上の正会員で、入会初年度の会費免除を受けた者は、翌年以降の会費を全納するものとする」を付加することが、理事会で承認されたとの報告があった。

9. 庶務事項について、喜多村事務局長より、下記のとおり報告があった。

A) 会員数 (2019年1月1日現在)

名誉会員：29名、代議員：177名、普通会員：2,099名 (合計：2,305名)

※普通会員のうち、2018年度入会学生会員：131名

※1年間で、会員数145名増加

B) 年会費納入状況 (2019年1月15日現在)

2018年度会費納入義務のある会員：2,145名

2018年度までの会費納入完了者：1,858名 (87%)

2年以上の滞納者：45名

C) 疫学会通信 (2019年1月1日現在)

登録者数：2,282名 (登録率99%) 2018年発行回数：47回

10. 第30回学術総会会長の中山健夫先生 (京都大学) より、あいさつがあった。

11. 2018年度各種賞 (上記2.の7) 参照) の表彰式が行われた。

12. 最後に祖父江理事長よりあいさつがあり、閉会となった。

以上